

広島中央環境衛生組合地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の実施状況について

1. 令和4年度の点検・評価結果の総括

令和4年度における本組合事務・事業に係る「温室効果ガス排出量」は、集計の結果26,380t-CO₂となり、基準年度である平成25年度の排出量37,352t-CO₂と比較して10,972t-CO₂の削減となりました。これには、令和3年10月の広島中央エコパークの供用開始により、施設の集約化を行ったことが大きく影響しています。

今後は、これまでの取組を着実に推進するとともに、年度ごとに点検を行い、温室効果ガスの排出量の削減に努めて参ります。

表1. 基準年度との比較

区分	排出量（単位：t-CO ₂ ）		削減量 （削減率）
	基準年度(2013年度)	2022年度	
温室効果ガス	37,352	26,380	-10,972 -29%

※調整後排出係数に基づく数値のため、以降の表に記載する実績値とは一致しません。

2. 温室効果ガス排出量

(1) 温室効果ガス総排出量

本組合事務・事業の「温室効果ガス総排出量」概況を表2に示します。

表2. 本組合の「温室効果ガス総排出量」概況

(単位：t-CO₂)

年度 温室効果ガス	2013年度	2022年度			2030年度	
	【基準年度】	【実績値】	基準年度との比較		【目標排出量】	【目標削減率】
			増減	削減率		
温室効果ガス総排出量	37,352	26,359	-10,993	-29%	-	-
エネルギー起源二酸化炭素	11,405	6,615	-4,790	-42%	5,588	-51%
燃料の使用	436	5,978	5,542	1271%	-	-
電気の使用	10,969	637	-10,332	-94%	-	-
非エネルギー起源二酸化炭素	25,947	19,744	-6,203	-24%	19,460	-25%

※基礎排出係数に基づく数値を使用しています。

(2) 温室効果ガス排出量の内訳

本組合の温室効果ガス排出量の内訳を表3に示します。

表3. 本組合の温室効果ガス排出量の内訳

(単位：t-CO₂)

排出要因	年度	2021年度		2022年度	
		【前年度】	【実績値】	前年度との比較	
				増減	削減率
エネルギー起源二酸化炭素		7,594	6,615	-979	-13%
燃料の使用		3,092	5,978	2,886	93%
ガソリン		7	4	-3	-
灯油		37	0	-37	-
軽油		52	54	2	-
A重油		412	532	120	-
ガス(LPG)		38	75	37	-
石炭コークス		2,546	5,313	2,767	-
電気の使用		4,502	637	-3,865	-86%
非エネルギー起源二酸化炭素		22,566	19,744	-2,822	-13%
一般廃棄物中の廃プラスチックの焼却		22,566	19,744	-	-

(3) 施設ごとの温室効果ガスの排出量

本組合における施設ごとの温室効果ガス排出状況を表4に示します。

表4. 施設ごとの温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

施設	年度	2021年度		2022年度	
		【前年度】	【実績値】	前年度との比較	
				増減	削減率
エネルギー起源二酸化炭素		7,592	6,615	-977	-13%
広島中央エコパーク※1		3,122	5,947	2,825	90%
賀茂環境センター		426	418	-8	-2%
竹原安芸津最終処分場		59	45	-14	-24%
大崎上島環境センター※2		103	7	-96	-93%
大崎上島クリーンセンター		188	178	-10	-5%
賀茂環境衛生センター多目的広場		13	20	7	54%
賀茂環境衛生センター※3		2,767	0	-	-
竹原安芸津環境センター※3		593	0	-	-
竹原クリーンセンター※3		166	0	-	-
安芸津クリーンセンター※3		155	0	-	-
非エネルギー起源二酸化炭素		22,566	19,744	-2,822	-13%
広島中央エコパーク※1		13,207	19,744	-	-
賀茂環境衛生センター※3		7,102	0	-	-
竹原安芸津環境センター※3		1,853	0	-	-
大崎上島環境センター※2		404	0	-	-

※1：2021年10月供用開始のため、2021年度の稼働は半年間です。

※2：施設集約化により2021年度でごみの焼却を終了し、現在はごみ中継施設として稼働しています。

※3：施設集約化により2021年度で施設を閉鎖しています。

3 評価

(1) エネルギー起源 CO₂ 排出量

令和4年度のエネルギー起源 CO₂ 排出量は 6,615t-CO₂で、基準年度である平成25年度の排出量 11,405 t-CO₂と比較して 42%(4,790 t-CO₂)の減少となり、削減目標の 51%(5,588 t-CO₂)まで、残り 9%となりました。

また、前年度の令和3年度と比較すると、13%(979 t-CO₂)の減少となりました。令和3年度は広島中央エコパークを供用開始し、従来のごみ処理施設3施設を1施設に、し尿処理施設3施設を1施設に、最終処分場2施設を休止して施設の集約化を図りました。

広島中央エコパークに設置した高効率ごみ発電施設では、一般廃棄物の焼却に伴う排熱を利用したごみ発電を行い、本組合のエネルギー消費の大部分を占めていたごみ処理施設とし尿処理施設で使用される電力のほぼ全量を自家発電でまかなうことが可能となりました。それによって、電気の使用に伴って排出されるエネルギー起源 CO₂の大幅な削減が達成されています。

(2) 非エネルギー起源 CO₂ 排出量

令和4年度の非エネルギー起源 CO₂ 排出量は 19,744t-CO₂で、基準年度である平成25年度の排出量 25,947t-CO₂と比較して 24%(6,203t-CO₂)の減少となり、削減目標の 25%(19,460 t-CO₂)まで、残り 1%となりました。

また、前年度の令和3年度と比較すると、13%(2,822 t-CO₂)の減少となりました。

この結果は、本組合を構成する自治体のプラスチック製容器包装等のリサイクルの推進の取組と、その取組に協力した住民の皆様のお力によるものととらえています。

4 今後の取組

本組合は令和3年度の施設集約化を経て、令和4年度から新たな処理体制で一般廃棄物の処理をスタートさせました。次年度は新たな取組として、広島中央エコパークのごみ発電で得た環境価値の高いエネルギーである未利用エネルギーの組合管内施設への導入を進めます。今後も、新たな処理体制での課題を精査して、引き続き温室効果ガス排出量の削減に努めていきたいと考えています。